未来へつなごう、湧水の池

KAIBORI News

No.21

2019年7月

●発行
東京都西部公園緑地事務所
http://www.kensetsu.metro.tokyo.jp/jimusho/seibuk/index.html

●編集
認定 NPO 法人 生態工房
http://www.eco-works.gr.jp/

ツツイトモが広がるボート池。都内では貴重な群生地だ。(2019年6月)

ツツイトモの群生

井の頭池では1960年代に湧水が涸渇して以来、水草が見られない状態が続いていたが、一回目のかいぼり後の2014年にツツイトモなどが再生した。ツツイトモの生育範囲は池の全域に拡がり、初夏には水面が緑の濃淡に彩られる。この様子がクロード・モネの『睡蓮』のようだと話題になり、6月には大勢の来園者がこの景観を堪能した。

水草が再生したわけは？

かいぼり後に水草が繁茂する現象は各地の池で見られる。こうした水草は、池底に眠っていた埋土種子から再生したものだ。

ツツイトモの種子は、池の干し上げによる温度変化や乾燥などの刺激で発芽した。かいぼり後は池水の透明度が改善され、水草の生長に必要な日光が水中によく届いた。コイを取り除いたことも効いている。コイは池底の泥を巻き上げ、水草の定着を阻害したり、水を濁らせる一因となっていた。

このように干し上げや外来魚駆除を徹底したこと、かいぼりを繰り返し行ったことが良好な環境の再生につながった。水草の大敵となるアメリカザリガニの駆除を継続していることも見逃せない。

かいぼり前のボート池。巻き上げられた泥で池水が濁っている。

水中の様子

ツツイトモ

葉や茎が糸のように細い水草。5月から6月、1.5〜1.8mに伸長して水上にツクシのような花を咲かせる。環境省レッドリストの絶滅危惧Ⅱ類。

アメリカザリガニのワナを回収するかいぼり隊

祝 大群生！ ツツイトモ ウォッチングガイド

ボートで観察

目線が低い手こぎボートがオススメ

晴れた日は気泡がプクプク

水中の森みたい

橋から観察

真上から見た美しさは感動的。
ツツイトモが塵を吸着するから透明度バツグン！

切れ藻で日なたぼっこ（ニホンスッポン）

巣材もツツイトモ

ツツイトモの茂みは小魚やエビがいっぱい

ツツイトモの絨毯の上でひと休み…

カイツブリの子育て

よーく探すと…

イトトンボがいっぱい！

かいぼり 29 以降、イトトンボの仲間が劇的に回復。今期の目視数は昨年の 24 倍となっている。

産卵するクロイトトンボ

井の頭池初確認☆ムスジイトトンボ

都レッドリストに選定されている希少種

アオモンイトトンボの交尾

Topics

大きく育った！ 初営巣のアオサギ

2019年の春、井の頭池で初めてアオサギが営巣しました。最初に造った巣を3月に放棄し、再度巣を造った木が井の頭自然文化園（水生物園）のサギ舎の真上。飼育されているアオサギに惹きつけられたのでしょうか？

新巣は枝の陰で見えにくいところにありましたが、ときどきチラッと見える2羽のヒナがだんだんアオサギらしい姿になっていき、6月末に巣立ちました。

巣立ちビナはまだ親元を離れず、水生物園の敷地や付近の池畔で過ごしています。ぎこちない動作で枝をくわえて歩いたり、人のいない時間に園路を歩いてみたり。井の頭池で魚を捕る姿が見られる日を心待ちにしています。

井の頭池初の巣立ちビナ。頭頂部がポヤポヤ！

今号のイチオシ！ 自然情報

表層を泳ぐオイカワ

水質のよい場所に棲むオイカワは、近年、確認数が増えている。アメンボに接近し、素早く捕食して小さな水紋を残す様子がそこかしこで見られる。繁殖期の初夏、砂底に産卵床を作る様子も見られた。